

(別紙様式)

都道府県番号	11
都道府県名	埼玉県

()

学校名及び規模

上福岡市立福岡中学校						
	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	5	4	2	16	28
生徒数	180	160	154	7	501	

実践研究の概要

<p>・研究テーマ 「学びの感動 個がもえる評価の実践的研究」</p> <p>・テーマ設定の趣旨 生徒一人一人が様々な学びを通して「わかる」「できる」という感動を覚え、その感動や変容した姿を教師や生徒同士で適切に評価する。この地道な積み重ねこそが生徒の学びを喜びに変え、学習の深まりを生み、更なる学習の発展へと続く。その結果、生徒一人一人に着実に確かな学力を定着させることができると考え、本研究テーマを設定した。</p>

実践研究の内容について

() 研究体制の工夫

研究推進の核となる「研究推進プロジェクト」は6名で構成され、校長の指導の下に研究推進委員長を中心に研修会の企画・運営や授業研究計画、そして研究の方向性や進捗状況などを全教職員の浸透させることなどを推進している。

また、毎週木曜日を「フロンティアの日」として各プロジェクトからの報告や願いを全教職員に伝え、共通理解を図ったり、週1回程度「福岡中学校フロンティア便り」を配布し、情報提供も実施した。研究推進プロジェクトは夏季休業中に宿泊研修を実施し、研究への共通理解を図った。

() 実践研究の内容

本校では、子どもを中心に据えた、夢と希望を実現させる明るく活力ある学校づくりを目指して、「特色ある授業づくり」「個がもえる評価の在り

方」「学習に関する生徒の実態調査」の3つの柱を中心に、各研究部が教科・領域等で研究を深めた。

(1) 個に応じた授業の実践

数学・体育・総合的な学習の時間で「少人数授業」を実施した。数学は3年生で年間105時間、体育は3年生で70時間、総合は1・2年生が85時間・3年生が130時間を実施して成果と課題を明らかにした。理科・英語・数学では「TT授業」を実施した。理科は2年生で年間70時間、英語は1・2年生で35時間、数学は1・2年生で35時間実施した。そして、数学3年生では「習熟度別授業」を年間105時間実施した。

(2) 数学「習熟度別授業」の内容

1つの学級を、時間をかけて基礎的・基本的内容について納得いくまで取り組む「じっくりコース」と発展的応用的内容を中心に取り組む「ばりばりコース」の2つに分けてコースを編成した。そして各单元ごとに事前にアンケートを行い、各自の希望を最優先にクラス編制を行い、授業を実施している。授業では、それぞれの教室と同じフロアにある少人数教室を使用した。定期テストは同じ問題で実施し、单元ごとに評価規準を生徒に配布した。

【学習内容例】

多項式 式の展開	じっくりコース	ばりばりコース
1. 基本的な説明	2時間	1時間
2. 計算練習	2時間	1時間
3. 応用	1時間	2時間
因数分解		
1. 基本的な説明	3時間	2時間
2. 計算練習	1時間	1時間
3. 応用	2時間	2時間
4. 総合発展問題	なし	2時間
	計 11時間	計 11時間

【生徒へのアンケート集計結果より】

- 習熟度別授業を受けて学習への意欲は変わりましたか。
向上した(36%) どちらともいえない(43%) かわらない(21%)
- 習熟度別授業を受けて学力が向上したと思いますか。
向上した(37%) どちらともいえない(38%) かわらない(26%)

(2) 評価規準の作成と活用の工夫

各教科・領域ごとに学期ごとに单元ごとの評価規準を文章で作成し、生徒に配布して学習の目当ての徹底を図った。またフロンティアボード

を作成して、各教科主任を中心に単元ごとの評価規準を提示し、授業や定期テストの学習のポイントを掲示した。保護者や地域に対しては、保護者会や学校公開日・授業参観日を通して、評価規準の意味や見方の徹底を図った。またホームページを作成して、インターネットを通して評価規準の一覧表を公開した。

(3) 全校一斉学力テストと生徒の実態調査の実施

平成14年7月に全校生徒を対象に一斉学力テストを実施した。生徒の持つ各教科に対する知識・理解のレベルを正確に知り、今後の研究の基礎データとする目的で実施した。1年後に同じテストを実施し、研究の成果と課題を明確にする予定である。

また、学力の向上と日々の学校生活や家庭における実態との因果関係をつかむために、生徒の実態調査を実施した。

() 成果と課題

少人数授業や習熟度別授業などの「個」に応じた授業を全校で展開することで、学習に対する姿勢が積極的になったり、学習への意欲が向上した生徒が確実に増えた。また、多くの研究授業や研修会等を経験することで、教師一人一人の力量が向上した。生徒の実態を知り、保護者・地域の願いを理解し、教師自身が「学力」「基礎基本」「教育」とは何かを考え、実践を積み重ねることを通して学校全体が活性化した。今後はより生徒のニーズに応えられる「個」に応じた授業形態の工夫・改善やポートフォリオなどを用いた評価方法の導入等、指導と評価の更なる一体化などを図っていく必要がある。また、「研究推進プロジェクト」を中心とした更なる研究体制の充実や組織的な研究推進を図り、本校のフロンティア研究の成果と課題をより明確にしていく取組を実践していく必要がある。そのためには教師一人一人の資質の向上が必要であり、日々の地道な研究の積み重ねこそが重要であると考えます。

() 成果の普及と方法

ホームページを作成し、随時研究の内容や進捗状況を公開している。

また、研究授業を実施したり、保護者会時に授業を公開し、保護者や地域に研究の成果を発信している。

その他、学校便りを活用しての成果の普及も毎月定期的にも実施している。